



## 新機能と更新情報

- [新規および変更情報 \(1 ページ\)](#)

### 新規および変更情報

次の表は、現行リリースに至るまでにガイドの編成と特徴に加えられた主な変更点の概要を示しています。ただし、今リリースまでのガイドにおける変更点や新機能の一部は表に記載されていません。

表 1: リリース 25.0(4) の **Cisco Cloud APIC** での新機能と動作変更

機能または変更	説明	参照先
Cisco Cloud APIC の Cisco Catalyst 8000V での PAYG ライセンス モデルのサポート	Cisco Cloud APIC は Cisco Catalyst 8000V でのペイアズユーゴー (PAYG) ライセンスモデルをサポートしています。これにより、ユーザは VM サイズに基づいてクラウドに Catalyst 8000V インスタンスを展開し、時間単位で使用料を購入できます。	

表 2: リリース 25.0(3) の **Cisco Cloud APIC** での新機能と動作変更

機能または変更	説明	参照先
Cisco Cloud Services Router 1000v から Cisco Catalyst 8000V への移行	Cisco Cloud APIC は、リリース 25.0(3) 以降、Cisco Cloud Services Router 1000v から Cisco Catalyst 8000V に移行します。	

機能または変更	説明	参照先
Cisco Cloud Services Router 1000v および Cisco Catalyst 8000V で使用される用語	<p>上記の2種類のルータには、次の用語が使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>CSR</b> : クラウドサービスルータの省略語です。シスコクラウドサービスルータ 1000v を指し、リリース 25.0(3) より前のリリースで使用されました。</li> <li>• <b>CCR</b> : Cisco Cloud ルータの略。リリース 25.0(3) 以降で使用される Cisco Catalyst 8000V を指します。</li> </ul> <p>さらに、このドキュメント全体で、<b>CCR</b> は、リリースに応じて、上記のいずれかのルータの総称として使用されます。</p>	
マルチサイト オーケストレータの名前の変更	<p>Cisco ACI マルチサイト Orchestrator (MSO) は、2021年8月15日のMSOリリース3.4.1から Cisco Nexus Dashboard Orchestrator (NDO) に変更されました。この Cisco Cloud APIC ドキュメントでは、MSO のすべてのインスタンスが NDO になりました。</p>	

表 3: リリース 25.0(2) の Cisco Cloud APIC での新機能と動作変更

機能または変更	説明	参照先
Cisco Cloud APIC の AWS での複数 (2 つ以上) のアベイラビリティゾーンをサポート	<p>Cisco Cloud APIC の AWS の複数 (2 つ以上) のアベイラビリティゾーンをサポートが提供されるようになりました。</p>	<p><a href="#">Cisco Cloud APIC ポリシーモデル</a></p>

機能または変更	説明	参照先
AWSでルーティングとセキュリティポリシーを個別に構成するためのサポート	<p>リリース 25.0(2)以降、ルーティングポリシーに対して次の更新を利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>内部 VRF ペア間のルートマップベースのルートリークをサポート</li> <li>内部 VRF ルートリークポリシーのサポート。これにより、内部 VRF のペア間で契約ベースのルーティングまたはマップベースのルーティングを使用するかどうかを選択できます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">Cisco Cloud APIC の概要</a></li> <li>• <a href="#">Cisco Cloud APIC コンポーネントの設定</a></li> </ul>
CCRIPsec トンネルは、外部ブランチ接続に使用可能な3つのデータインターフェイスのいずれかを使用できるようになりました。	<p>リリース 25.0(2)より前では、外部ネットワークへのすべてのトンネルは、CCR ルータの1つの特定のインターフェイス（GigabitEthernet3 インターフェイス、または cloudHostIfp-2）から発信されていました。</p> <p>リリース 25.0(2)以降、サポートが拡張され、同じ宛先へのトンネルを GigabitEthernet2、GigabitEthernet3、および GigabitEthernet4 インターフェイスから形成できるようになりました。これは、IKEv2 構成のトンネルでのみサポートされます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">Cisco Cloud APIC の概要</a></li> <li>• <a href="#">Cisco Cloud APIC コンポーネントの設定</a></li> </ul>
ワークロードデプロイ用のクラウドリージョン数の増加のサポート	<p>リリース 25.0(2)より前では、サイトごとに最大4つのリージョンを持つことができます。リリース 25.0(2)以降、サイトごとに最大16のリージョンを持つことができます。</p>	

表 4: リリース 25.0(2) の Cisco Cloud APIC での新機能と動作変更

機能または変更	説明	参照先
Cisco Cloud APIC のリリース番号の変更	リリース 25.0(1) 以降では、Cisco Cloud APIC のリリース番号が変更されています。Cisco Cloud APIC のリリース順序は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 4.1(x) (AWS のみのサポート)</li> <li>• 4.2(x)</li> <li>• 5.0(x)</li> <li>• 5.1(x)</li> <li>• 5.2(x)</li> <li>• 25.0(x)</li> </ul>	
Cisco Cloud APIC での Prometheus Node Exporter のサポート	Prometheus ノードエクスポートは、リリース 25.0(1) 以降から Cisco Cloud APIC でサポートされています。	<a href="#">システムの詳細の表示</a>
インフラ VPC CCR から IPSec/BGP を使用した外部デバイスへの IPv4 接続のサポート。	インフラ VPC CCR から IPSec/BGP を使用する任意の外部デバイスへの IPv4 接続がサポートされるようになりました。	<a href="#">外部ネットワーク接続</a>
外部接続の設定時に、セキュリティ ポリシーに関係なく、内部 VRF と外部 VRF の間でルーティング ポリシーを個別に設定するためのサポート。	外部接続の設定時に、セキュリティ ポリシーに関係なく、内部 VRF と外部 VRF の間でルーティング ポリシーを個別に設定するためのサポートが利用できるようになりました。	<a href="#">サポートされているルーティングとセキュリティ ポリシーの概要</a>

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。